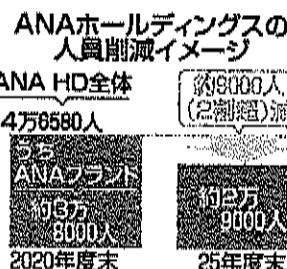


ANA千人削減へ

通期赤字1000億円予想

ANAホールディングス(HD)は29日、2025年度末までの5年間で人員規模を約9千人削減する計画を発表した。大半が国内従業員で、全日本空輸などANAブランドの航空事業に携わる人の2割超に当たる。22年3月期の連結損益は、従来予想の35億円黒字から1千億円の赤字に下方修正した。コロナ禍で旅客需要の低迷が長引いており、黒字回復を断念した。今後の需要動向次第では、地方路線の追加減便が検討される。

【7面に関連記事】



人員削減は、主に中核航
空会社である全日空の地上
職や客室乗務員らが対象
で、今後発表した9千人分
は基本的に定年や自主退
職、採用抑制などで対応す
る。テクノロジーや機械化を
導入して効率化を図り、人手
を削減する方針だ。

一方で、今回発表した9千人分
は基本的には定年や自主退
職、採用抑制などで対応す
る。テクノロジーや機械化を
導入して効率化を図り、人手
を削減する方針だ。

通期決算の赤字は2年連続となる。過去最大の赤字を記録した21年3月期の4046億円からは赤字額が縮小する。売上高も従来予想の1兆3300億円から1兆600億円に下方修正した。

ANA HDの片野坂真哉社長は決算記者会見で、「人をたくさん抱える航空事業は感染症の大流行に非常に弱い。小さな会社になって『コロナのトンネルを抜けたい』と説明。四半期ペースで連結総業績が黒字回復する見通しを示した。

回復するのは22年1~3月期になるとの見通しを示した。

同時に発表した21年9月中間連結決算は、純損益が988億円の赤字(前年同期は13884億円の赤字)だった。売上高は47.7%増の43311億円で、コロナ禍の最悪期からは持ち直した。国際線の貨物事業は自動車部品などが好調で、4四半期連続で過去最高の売上高を更新した。

全日本空輸は冬ダイヤ(10月31日~来年3月26日)で、羽田~富山など国内12路線の便数を減らす計画を公表している。片野坂氏は、来年夏ダイヤ以降で追加減便する可能性について明言を避けた。

年夏ダイヤ以降で追加減便する可能性について明言を避けた。